

豆

三年

画数 7
筆順 一 豆 豆
オン トウ・ズ
クン まめ

成り立ち



食べものをもる「うつわ」の形をあらわした字です。高い足がついているので「高つき」といいます。中国では「トウ」という名前でした。

「トウ」という名前の「うつわ」をあらわした字ですが、わが国では「まめ」という食べものの名前につかわれます。それで、「まめ」のいみの「豆」も「トウ」と読むことがあります。例納豆。

「トウ」の音は、呉音では「ズ」と読みます。例大豆。
〔まめの本字は「豇」である。わが国には器の「豆」を使うことが稀だったので、「豇」を「豆」と書いたものであろう。〕

使い方

▽クリスマスツリーに豆電球がいっぱいついて、それはきれいでした。
▽わたしは、小豆の甘納豆が大好きです。でも、納豆はきらいです。

熟語例

▽豆電球まめでんきゅう（小さな電球のこと。小さなものをあらわすのに「豆」ということがむかしからつかわれていました。
「豆本」「豆自動車」など）
▽納豆なっとう（大豆をにて、これに「納豆きん」をはんしよくさせて作った食べもの）
▽甘納豆あまなっとう（小豆をにて、これにさとうをくわえて作った甘いおかし）
▽大豆ダイズ（豆るいの中で大きくて一番多くつかわれる豆です。納豆、豆腐、みそ、しょうゆなどのげんりょうです。）
▽豆腐とうふ（大豆をふやかしてつぶし、しぼり取ったしるをかためて作ったものです。）

島

三年

画数 10
筆順 一 戸 戸 島 島
オン トウ
クン しま

成り立ち



もとの字は、「鳥（年193）」という字と、「山」という字とを組み合わせて作った「嶋」という字でした。鳥という字の「カ」をばぶいて、かわりにそこへ「山」をおしこんで作ったものです。

海の中にある「しま」には、たいてい「山」があつてそこには「鳥」がすんでいます。それで、「しま」をあらわすのに「鳥」と「山」とを組み合わせて作りしました。

〔島の音のトウは「鳥」の音の変化したものである。「兆」も「桃」や「逃」ではトウになっている。〕

使い方

▽日本の国は島国ですが、北から南に長くならんでいるので「列島」といいます。フィリピンのように群がっているばあいは「群島」といいます。

熟語例

▽島国しまくに（四方を海にかこまれた国のこと。中国やアメリカのような大陸の国にたいしていいます。イギリスやフィリピンなど）
▽列島りゅうとう（一列にならんだようにつづいている島々のこと。北海道から本州、九州、南西諸島と、一列にならんだようにつづいています。）
▽群島ぐんとう（たくさん群がったようにひとところにとまっている島々。フィリピン群島。マーシャル群島などがあります。）
▽半島はんとう（伊豆半島や房総半島など、一方だけ陸につぎであとは海にかこまれている土地。半ば島のように見えるので半島といったものです。海につき出た土地）
▽離島りっとう（離れ島。陸地から遠く離れた海の中にある島のこと。）